

子どもに寄り添い、  
ともに差別をなくす  
取り組みをしませんか！

宮崎県人権・同和教育研究協議会（宮崎県同教）  
加入のお勧め



- 宮崎県同教は、部落差別をはじめとするあらゆる差別の解消に向けて活動しています。
- 会員の皆様には、ホームページや機関誌「かいほう」を通じて、研修会のご案内、人権学習実践教材や人権・同和教育に関するお役立ち情報をお届けします。
- 年会費は3,000円です。(地区同教会費500円を含む)

私たちは解放されることを願う“一人の人間として”  
子どもたちと向き合いたいと思います！

「教師である前に一人の人間として」 ～荒れた子どもたちとの出会い～

私が、県同教の会員になって何年なのだろう。いつ、入ったか覚えていない程、いい加減な加入だった。同じ職場の同僚に誘われるまま、県同教がどんなことをするのかさえ知らないで入ったのである。ただ、同和教育についてもっと学びたいという気持ちだけだった。県同教に入って同和教育の研修会に参加する機会が増えた。校内の出張案内だけでは分かりにくい情報が、「かいほう」によって詳しく得られるようになった。そんな中で、同和教育や解放運動に向き合う人々に出会えた。これらの人たちは、私には輝いて見えた。一人の子どもにとことん関わり共に歩いていく人や、自分の中の差別性さえもみつめながら世の中の差別と闘う人たち。彼らの姿が、私が教員として、人間として失っていたものを教えてくれた。私も、いつかは彼らのように歩みたい、そして、一緒に歩みたいと思うようになった。

しかし、それと同時に自分の差別性に気づかされた。差別は、悪い。差別は、絶対許せないと思っていたつもりだったが、私も差別する側にいることに気づかされた。知らない、知ろうとしないことがどんなに差別をうみだしていたのか。

数年前、荒れた学級に出会った。学級をかき回す数人の子どもがいた。私は、彼らを表面的におりこうさんに変えようとしていた。しかし、彼らの思いや生活に触れるなかで、自分を分かってくれる仲間を求めていることを知る。その関わりは、私がそれまで思い込んでいた教師という仮面をかぶったままでは、学ぶことができなかつたと思う。教師である前に、一人の裸の人間として子どもに向き合うことを忘れていたのだ。このことを、教えてくれたのが、同和教育の中で出会った人々だったのだ。この時から、教室にいることが楽しくなった。子どもたちの前で、人間でいられるようになったからだ。

ここ数年、若い先生たちと同和教育について語れるようになった。同じ職場の若い人たちで九州同教夏期講座に行った。宿舎で、その日、学んだことや感じたことを夜遅くまで語りあった。一人の女性は、分科会場から、宿舎に戻る帰り道、泣いていた。

「今まで、何も知らずに教壇に立っていたことが、恥ずかしい」と彼女は呟いた。彼女たちの新鮮でしなやかな感性が羨ましかった。

同和教育はいつでも、私が失っていたものを取り戻してくれる。私は自分が人間として失ったものを取り戻すために、そして、自分の差別性と向き合うために同和教育にかかわっていきたいと思う。そして、もっと多くの人々から学び、ともに歩んでいきたいと思う。

**加入届** 所属（学校名等）【  
お名前【  
職員番号【  
宮崎県同教 FAX 0985-65-6004 ☎ 0985-65-6003